東京文化発信プロジェクト
東京から生まれる新しい文化の波

command N

なないろチャンネル 2014

ななチャン

Media Center of Students 7ch.
学生メディアセンター なないろチャンネル
http://nanachan.tv/

コマンドN×東京アートポイント計画
主催：東京都、東京文化発信プロジェクト室（公益財団法人東京都歴史文化財団）、一般社団法人非営利芸術活動団体コマンドN、
協力：3331 Arts Chiyoda、なないろチャンネルに関わって下さった皆さん　企画制作：学生メディアセンター なないろチャンネル運営事務局

ななチャンドキュメント2010
〈DVD-MENU〉

取材

アートからまちおこしまで、クリエイティブな活動を取材し、Twitter や Ustream、Blog を使ってリアルタイムに情報を発信しています。

■ 地域×アート企画特集

近年様々な地域で行われているアートプロジェクト。地域の特性を活かしつつ魅力的な企画を作り出している人達からお話を伺うことで、地域とアートをあらゆる視点から見ていきます。

- 3331 Arts Chiyoda オープニング
- Insideout/Tokyo Project オープニング、トークセッション1·2·3
- 墨東まち見世塾「KOSUGE1-16＋吉田有里 地域とアートのシアワセな関係」
- 北本ビタミン“おもしろ不動産”利用者トークイベント

■ 今、学生に届けたい企画特集 ★

既に活動されているアーティストやクリエイターのイベント、トークを取材。そこからは、制作や表現に対する思いが伝わってきます。ななチャンでは、このような多様な企画を多くの学生に参考にして欲しいと思っています。

- 日比野克彦個展クレーンペインティング、日比野克彦×中村政人トーク
- 大遠藤一郎展「未来へ」記者会見、ライブペインティング
- 岸井大輔「東京の条件」会議体総会
- 東京文化発信プロジェクト Tokyo Art Research Lab「世界の現場から Talk&Cast」

■ 魅力的な若手企画特集 ★

学生や同世代の表現、アイデアを取材。まだまだ荒削りでも実験的なものや、魅力的な企画を紹介します。

- ぐるぐる回る 2010
- 銭湯で何ができるか考えてみる会
- シナプス・プロジェクト
- 3331 Arts Chiyoda クリスマス会
- 岡本太郎記念館夜間開館イベント「One Night Illusion」

交流

人と人、地域と地域、異分野の人たちとつながる交流会を定期開催しています。分野の垣根を超えた刺激的な出会いをつくります。

■ 交流会、メンバー会議 ★

■ なないろチャンネル×会 / 議 / 体 ★

■ なないろフェスティバル：
なないろチャンネル×つながりカフェ ★

■【インタビュー】

今年度ななチャンに関わって下さった方にインタビューをし、活動を振り返ります。

- 佐藤公哉（表現：hyogen）
- 角谷七瀬（東京芸術大学音楽環境創造科）
- 岸井大輔（劇作家）
- 遠藤一郎（未来美術家）

企画

出会ったメンバーで展覧会やライブ、ワークショップを開催。団体・個人それぞれが得意なジャンルや興味関心を活かし、企画をみんなで創っていきます。

■【音楽ライブ】なないろフェスティバル：
「なないろチャンネル One Night Live☆」★

■【電子工作 WS】なないろフェスティバル：
「秋葉原で電子工作～なないろライトを作れ!～」★

■【トーク番組】なないろチャンネル七夕会議

■【音楽番組】
なないろチャンネルぐるぐるフォーラム!!

■【アーティストトーク】Artalk
～アットホームなアーティストトーク～★

■【音楽番組】TAKE/AND/MUSIC/7

■【突撃取材番組、トークセッション】
ななチャン住み開き拠点巡り

ななチャン について

「学生メディアセンター なないろチャンネル（ななチャン）」は、様々な地域・分野の学生や若者たちがそれぞれのパーソナルな視点を持ちつつ、多彩なメディア（媒体）を駆使し、お互いに協働し合い、新しいものを生み出していけるような運動体としてのメディアセンター（媒介の中心）です。

2010 年、自分の置かれている状況や大学という環境に閉塞感を感じ、問題意識を持った学生達が集まり「なないろチャンネル」が誕生しました。その名の通り、異なる色を持つ学生たちが自身の色を活かしつつ、混ざり合うことで新しい無限の色をつくり出し、発信していくというコンセプトにもとづいています。「面白いものを見たい、知りたい、つくりたい」と願う学生たちは自分の専門分野の枠を超え、出会う場を求めていました。また、社会的にはマスメディアの在り方が問い直される、大きな変革の年でもありました。ソーシャルメディアの普及とも相まって、誰もが様々なツールを使い、情報の発信が容易になったからこそ、それぞれのアイデアや視点、表現が際立ちはじめていたのです。

そんな中で、「ななチャン」は学生同士が共に自らの力で”遊びと学びの場”をつくっていくことを目指しています。取材・交流・企画の3つの柱をベースに活動していくことで、今の学生が何に興味を持ち、何を考え、何を伝えようとしているのかを「ななチャン」に集積していきました。普段の大学生活だけでは決して出会えない魅力的な人たちと、モノ・コト・場を共有し、それぞれの視点やアプローチで読み解いていくことで、多様な価値観に触れることができます。こうして経験した協働作業は、自分自身を成長させてくれる糧になるはずです。もっともっと学生が学生同士で面白くなっていく場をつくるために、このネットワークを広げていきたいと思っています。

そんな「ななチャン」の活動の一端をこのドキュメントから垣間見ていただけたら幸いです。今年度も多くの方々にご協力いただきましたことを、この場をかりてお礼申しあげます。

文：冠 那菜奈（「ななチャン」学生運営メンバー代表）

ななチャンドキュメント2010について

2010 年度に「ななチャン」が行った活動のうち、DVD では選りすぐったプログラムを編集映像で掲載しています。冊子は映像ではお伝えできなかった舞台裏を文章と写真でお届けしています。DVD-MENU のうち、★印のついている項目が冊子の中にレポートとして収録されています。また、ご協力いただいた方々にお答えいただいたアンケート回答の一部も巻末に掲載していますのでご覧ください。

取材 今、学生に届けたい企画特集

～プロから学ぶ心意気～

大学という限られた場ではなかなか触れることができないけれど、内面を満たしてくれるものは世の中にたくさんある。学生のうちだからこそ、いろいろな場所に出向き、多くのものを見ておきたいものだ。

「ななチャン」では、こうした学生の探究心をメンバーと共に育てながら形にしていきたいと思っている。そこで、「取材」を通して実際の現場に行き、既に信念を持って活動されているプロの様子を間近で体感するプログラムを実施。自分の目・耳・肌で感じたことは誰かから伝えられる経験よりも、圧倒的に強い体験として自分の中に残る。そうやって、プロの背中を見て学ぶのだ。

しかし、「ななチャン」はただの参加者になりたいわけではない。その場を体験するだけで満足して終わっていては、単なるイベント参加者になってしまう。そうではなく、そこで起きていることをどうやったら面白く、内容をより濃密につたえることができるのか、考える意識や気持ちを持つことが重要なのだ。そのためには、時にことを起こす人たちと同じ目線になり、共に感動を伝えようとする必要があったり、第三者として何がどう面白いのかを自分なりの言葉で翻訳しなければならなかったりする。それは非常に難しいことだが、物事の本質を見極める訓練になる。たとえその現場が自分の興味や関心、専攻、研究と違っていても、その心を持って伝える立場になると、学ぶべき要素がたくさんあることに気づく。その要素を、次は自分たちが表現する時に発揮できるようにと、心に携えておくのだ。

文：冠 那菜奈

1

2

1. 大遠藤一郎展「未来へ」ライブペインティング
@ island MEDIUM 2011年1月21日
2. 日比野克彦個展クレーンペインティング
@ 3331 Arts Chiyoda 2010年11月14日

取材 魅力的な若手企画特集

～同世代で同世代を面白くしていく～

学生や同世代の若者たちが「今」何を見て、何を考え、何を伝えようとしているのかを「ななチャン」は追い続けて行きたいと思っている。なぜなら、そこには時代が変わっても、常に実験的なものや、フレッシュなエネルギーに満ち溢れているものがあるからだ。

自分のアイデアをアウトプットするのは容易なことではない。ましてやそれが、自分ひとりだけのものではなく、より多くの人と共有したり、協力を必要とするものであればなおさらだ。さらに、学生ゆえの経験不足や考えの甘さはどうしても付きまとう。けれども、そのアイデアの中に問題意識や挑戦心、可能性が内在されていると、荒削りでも人は引きつけられる。そうやって実験的に、良いものをつくろうとしている人たちを「ななチャン」では応援したいと考えている。そして、どうしてそれをやろうと思ったのか、なぜそういう考えに至ったのか、失敗と成功から学んだものは何かなど、そのアイデアに対して一緒に深く掘り下げて考えていきたい。実際には、お互いに答えを見出せず、悩みながら朝まで語り明かすことや意見の食い違いでぶつかり合うこともある。しかし、こうした行為によってそのアイデアがもっともっと魅力的になってほしいと思うのだ。

さらには、紡ぎ出された経験談やアイデアを積み重ね、今度は「自分も何かをやってみたい」と思う人の後押しができればと思う。同世代の中にも、すでに一目置かれている人やかなりの経験値がある人も多くいるだろう。では、そういった人たちと、今から動こうとしている人たちとでは何が違うのだろうか？　新しいことに挑戦したり、さらにそれを多くの人に伝えようとすることは、簡単なことではないが、不可能なことではないはずだ。そうやって新しい一歩を踏み出すための手助けをすることが「ななチャン」の成長の現れでもある。

この1年で「ななチャン」が取材を行った魅力的な活動は、まだまだほんの一部にすぎない。全国にはもっとたくさんの魅力的な活動が眠っているはずだ。そうした活動を行っている人たちを取材し、応援すると共にこれからアクションを起こしたい人たちの後押しをして、同世代で同世代を面白くする動きをつくりたい。

文：冠 那菜奈

「ぐるぐる回る 2010」会場風景
@埼玉スタジアム 2010 年 6 月 26 日

交流 交流会、メンバー会議

～おすそわけからはじまる異分野協働～

「ななチャン」には、文化芸術・社会科学・自然科学など、分野を問わずさまざまな学生や社会人が集まっている。いってみれば異分野協働の場だ。各自が得意分野をいかすためには、“できる人ができることをやる”という方法がある。しかし、勉強会やワークショップによって、得意分野を持つ人からこれまで得られなかった知識を学ぶという方法もある。

私は自身の研究でフィールドワーク・インタビュー・アンケート調査などを行い、論文を書いている。このリサーチスキルを誰かに“おすそわけ”できたら、アーティストでもなく、キュレーターでもない“アートの素人”である私もアートプロジェクトに関われるのではないだろうか。実際のところ、リサーチスキルを身につけたいと考えているアートプロジェクト関係者は多いようだ。

そこで、“取材（フィールドワークやインタビュー）を行い、記事を書きたい人のためのゼミ”と称して、読書会や取材ミーティングを行った。さまざまな分野の人たちと議論するからこそ、自分の専門分野や業界では常識だったことが他分野から見ると新しかったり、不思議だったりすることに気づくことができる。ひとつの課題に対するアプローチが分野によってどう違うのかを知ることができるのも、このゼミならではだ。

大学のゼミから気の合う仲間が見つかったり、飲み会や共同研究がはじまったりするように、このゼミからも新しいネットワークや活動が生まれた。同様に、新しいモノ・コトが芽を出すための土壌をつくり、種まきと水やりをすることが「ななチャン」の役割だと感じている。

文：石幡 愛

1

2

1. メンバー取材会議風景
@秋葉原ラジオセンター 401　2010 年 7 月 8 日
2. 交流会風景
@ 3331 Arts Chiyoda　2010 年 10 月 22 日

交流 なないろチャンネル × 会 / 議 / 体

～アクションにつながるネットワークを作り出す場～

ある場所に集まった人の個人的な悩みを、その場にいる人たちのアイデアで解決する、劇作家・岸井大輔さんの「会 / 議 / 体」。内容を聞いたところ普通の会議のようだが、岸井さんはこれを演技という。なぜ、会議が演技なのか？　私は頭に“?”を浮かべながら参加した。

幸運なことに、私は初参加にして「飲み会で会話のテンポについていけない」という私自身の悩みを取りあげてもらえた。参加されている方とともに、この悩みを解決する方法を探るのだ。すると、「話し上手になるための本を貸すよ」「話題を広げるといいかも。マインドマップに書き出してみない?」「ツッコミの練習をしよう!　私ひたすらボケるから」さらには「テンポに乗るといえばマジカルバナナじゃない?」という提案までいただいた。

しかし、面白いのはここから先だった。自分のアイデアと他人のアイデアの「接点」を見つけていくと、一見バラバラに見えたアイデア同士がつながり、問題解決に向けたひとつのストーリーになっていくのだ。

「なるほど。これが“演劇”なんだな……」

ひとり納得していると、「マジカルバナナでウォーミングアップしたら、本で予習し、マインドマップで手持ちネタを整理。そして、岸井さんの“後乗りワークショップ”にのぞみ、ひたすらツッコミの練習をする」という解決パッケージがあっという間に完成していたのだった。

次のお題で別のグループが「会 / 議 / 体」を行っている間、私たちのグループは部屋の片隅で早速マジカルバナナを実行。「アイデアを提案するだけではなく、本当に実現してしまうんだな」と予期せぬ展開に圧倒されつつも、楽しんでいる自分がそこにいた。

文：石幡 愛

1

2

1. 7月なないろチャンネル×会 / 議 / 体
　@秋葉原ラジオセンター 401　2010 年 7 月 10 日
2. 6月なないろチャンネル×会 / 議 / 体
　@秋葉原ラジオセンター 401　2010 年 6 月 23 日

企画 なないろフェスティバル

～色とりどりの活動をつなげる～

「ななチャン」では、新しい人と出会うたびにちょっとしたアクションが起こる。分野の異なる人が集うことで、「こんなことをしたら面白い」「この人がいたらあんなことができるんじゃないか」という小さな種が生まれるのだ。「なないろフェスティバル」は、そんな日々の種を集めて実現する企画。今年度はこのフェスティバルを7月16日から18日の3日間行った。「ななチャン」のベースである取材・交流・企画の活動をそれぞれ見ることができるこの企画は、多くの人たちが協力してくれた。

電子工作のワークショップでは、秋葉原に通う電子工作好きの方が学生にわかりやすくはんだづけを教えてくれる場を。ライブでは若手ミュージシャンと学生が空間を演出し、観客と一体になれる場を。交流会では次世代のリーダーを予感させる意識ある学生たちが集い、議論する場を。こどもワークショップではこどもたちと学生が一緒に絵本をつくりながら遊び、学べる場を。こうした場をつくりながら、同時にどう発信していくかを考えるのが大変であり、また、充実した時間でもあった。

ひとつのアイデアをみんなで足したり引いたりしていく作業の中で、想像もつかなかったことが起きたりする面白さ。そして、いつもは単発の企画にしか関わっていなかった人たちがこれを機に、その他の企画にも目を向け、線のように繋がっていく。「ななチャン」自体の新陳代謝を良くするためにも、それぞれの活動をつなぐ試みとして今後もこの企画を続けていきたいと思う。

文：冠 那菜奈

1

2

1.【音楽ライブ】「なないろチャンネル One Night Live ☆」
@秋葉原ラジオセンター 401　2010年7月16日
2.【交流会】なないろチャンネル×つながりカフェ
@ 3331 Arts Chiyoda　2010年7月17日

企画 Artalk
アットホームなアーティストトーク

～対話から浮かび上がる若手アーティストのアイディア～

現代アートに関わる若手アーティストにとって、コンセプトや表現方法についてプレゼンすることは必要不可欠なこと。しかし、こうしたスキルは大学で教わらないらしい。自分のテリトリー内で作品を評価しあっても「こんな感じだよね」と、雰囲気で終わってしまう。これでは、自分のことを知らない人に対してプレゼンする能力は身につかない。しかし、社会に出ると自分のことを知らない人だらけなのだ。それでいきなりプレゼンを求められて困ってしまう……。

そんな話を美大生から聞いたのがきっかけで、「知らない人に向けて自分の作品について説明するアットホームな若手アーティストトーク」を企画。これは完成したアイデアを披露する場ではなくアーティストと観客の対話から、作家自身も気づかなかったアイデアや言語化できなかったアイデアを拾いあげ、かたちにしていくことを目的としている。

事前に準備したものを一方的に話すとき（モノローグ）よりも、まだ煮え切らない言葉を伝えようとしたり、探しているとき（ダイアローグ）のほうがキーワードが出やすいのかもしれない。プレゼン終了後、緊張感がほどよく解けた状態での観客を交えたトークでは、ひとつの話題が他の話題とつながって絡み合い、話題の網目上に作家自身の言葉が浮かび上がってくる。こうした“アーティスト自身が考えるためのアーティストトーク”を今後も開催していきたい。

文：石幡 愛

1

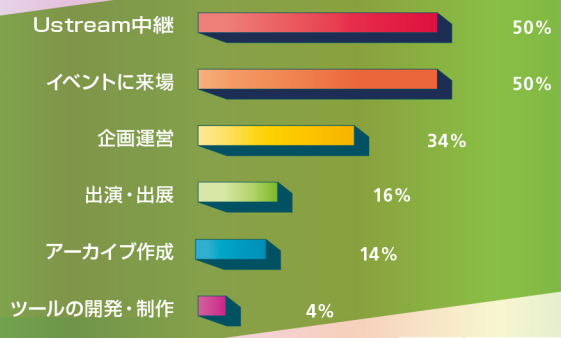
2

1. アーティストプレゼン中の様子
2. アーティストトーク中の会場風景
@松戸アートラインプロジェクト〈図書館〉 2010年12月11日

2010年度ふりかえりアンケート

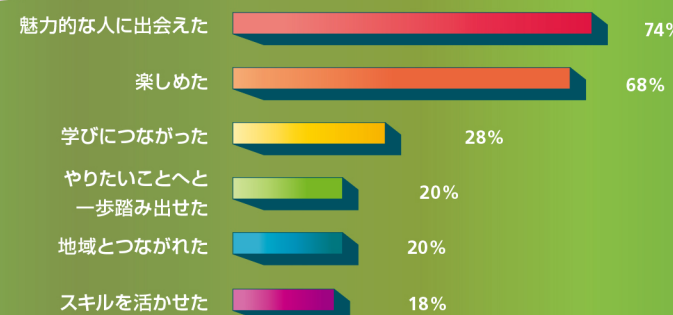
「ななチャン」の企画に参加した50人に聞きました！

Q1. どの企画に参加しましたか？
（複数選択可）



2人に1人が、中継に参加したり、イベントに来たりしてくれたんだね！
その他の関わり方が少ないので、来年はもっと増やしたいね…

Q2. 参加してよかったことは何ですか？
（複数選択可）



たくさんの人が、楽しんでくれたり、魅力的な人に出会えたと思ってくれているね。
来年は、自分のスキルを活かす場、学びや制作・研究の場づくりを頑張ろう！

このアンケート結果は、2010年度の活動を振り返るために行った「なないろチャンネルふりかえりアンケート」回答者107名の結果を一部抜粋したものです。

Q3.
あなたにとって「ななチャン」とはどのような場や団体ですか？

キラキラとワクワク。夢と可能性を秘めた団体。

アートを観る、時に対話し、**アートについて考える場。**コマーシャルギャラリーにはない魅力がある。

学生たちが中心となって、東京の中での**「伝える・つなぐ・引き出す・生み出す」**活動を、地域社会とリンクしながら促している団体。

いま、盛り上がっている場所や面白くなりそうな場所に出向き、その場の**雰囲気や臨場感を生で伝える**ことに強いメディア。

「奥まで届く」的な、ありがたい存在。

ジャンルを問わず、**何か面白いことを常に企てている人たち**、というイメージです。

実際の体験者や**参加者に限りなく近い視点**で活動するため親しみやすく、**ハブとしての機能**も高い。また、活動している学生が**専門分野を研究するためのフィールドワーク**が思い思いにできる場。

ポップに面白い情報を届けている若い方々がいる。ネーミング、ロゴがかわいくて、おしゃれ。

人と人がつながっていく場所。お互いを好きになれる仲間がいること。**実験と交流の場。**自分の見聞・世界観を広げてくれる時間。

若い人（学生）との接点。**世代を超えた**コラボイベントができる場。

いろんなところに出かけるし、いろんな人が出入りする。**屋台のような発信所。**

Q4.
今後どのような番組や企画があったらよいと思いますか？

マスのメディアがビックリするやつ。マスの方がソースにしちゃうような番組。

もっと鋭利でぶっ飛んで、かつ常識のある変態パーティーが組めると良いんでは。

アマチュアアーティストを紹介する番組。

メイクアップ講座や健康法を学ぶ企画があったら是非とも参加したいです。

ななチャンと**ラジオしたい**です！(^o^)

現場の裏を伝えてくれる企画。

中学や高校と何かしらのつながりをつくって、**教育的役割**をもたせても良いかもしれない。

自分達の周りにある時代や社会の課題に対し、時にはフレンドリーであり時には斬新な切り口の企画や番組。

海外在住の日本人学生と日本在住の留学生とSkype経由で討論会とか。

作家や関係者に、もっと**ディープで聞きづらいとこをインタビュー**する責任とアクの強さを持った、定期更新の冠番組のUstとか、あったら、是非はともかく、ちょっと面白そうでみたいかも（笑）。

特になにも起こらない長時間放送とか。ななチャンの作業場公開とか。

他のコンテンツに頼らず、**ななチャン独自**の番組内容を増やしていくべき。

http://nanachan.tv/

コマンドN × 東京アートポイント計画

コマンドNとは

コマンドNは、コンテンポラリーアートに関わるアーティストが企画・運営するアートプロジェクトを中心に活動する団体。地域再生、横断的かつ有機的ネットワークの構築などを独自のアートプロジェクトによって実践し、発信する側と受信する側の双方に成り立つコミュニケーションの在り方を提案しています。

東京アートポイント計画とは

「東京アートポイント計画」は、東京の様々な人・まち・活動をアートで結ぶことで、東京の多様な魅力を地域・市民の参画により創造・発信することを目指し、「東京文化発信プロジェクト」の一環として東京都と公益財団法人東京都歴史文化財団が展開している事業です。

ななチャンドキュメント 2010

統　　括：冠　那菜奈
デ ザ イ ン：桂　悠剛
DVD 制 作：大口 遼、山田 渉、土肥 友香
冊子制作：石幡 愛、宮田 舞、矢鳴 宏大、加藤 惟
WEB 制 作：野原 志郎、本谷 真理
企 画 制 作：学生メディアセンターなないろチャンネル運営事務局［冠 那菜奈、石幡 愛、加藤 惟、大口 遼、本谷 真理、野原 志郎］

発行：東京文化発信プロジェクト室（公益財団法人東京都歴史文化財団）
住所：東京都墨田区両国 3-19-5 シュタム両国 5 階　TEL：03-5638-8800　平成23年3月